

平成21年度学校評価表

1 学校教育目標 本校の三綱領「自主積極・廉恥自尊・礼節協調」の具現化に努め、知・徳・体の調和のとれた全人教育を推進する。教職員が一体となって保護者や地域との連携のもと、県民の期待に応え、活力のみなぎる存在感のある学校づくりを目指す。

2 本年度の重点目標 (1) 生徒・保護者の期待に応える進路目標の達成 (2) 三学科（普通科・理数科・美術科）の充実と特色ある学校づくり (3) 人権尊重と三綱領の精神を体現する生徒の育成と個性の伸長 (4) 職員の資質及び組織力の向上と学校の活性化 ※評価は、「4：十分達成できている 3：おおむね達成できている 2：やや不十分である 1：不十分である」の4段階で評価。

3 自己評価総括表							
評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題		
学校経営	特色ある学校づくり	自ら学ぶ態度の育成	「早朝学習」を行い、自学自習の習慣を定着させる。	進路指導部が企画し、各学年・教科と連携し運営する。生徒の学力に合った課題の準備及び事後指導を行う。	3	計画通り実施することができたが、「5分前着席」の習慣づけが不十分であった。	
		読書の習慣化	「朝読書」を行い、読書習慣の定着を図る。	生徒と一緒に全職員も取り組む。図書部がアンケートを実施し、改善に努める。	3	生徒の「朝読書」への取組は概ね良好であるが、「早朝学習」からの切り替えができない生徒もいた。職員については、朝の連絡等で時間がとれず、取組ができない場合があった。次年度は、「早朝学習」の課題の精選と朝会連絡の時間短縮が必要である。	
		スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の推進	国際社会で活躍できる科学技術系人材を育成する。	外国人研究者による講義や関東研修を実施する。	JSPSフェロー講義等の研修により、生徒のリスニング能力が高まったこと、英語で受講することや英語で発表することへの抵抗感が減ったことが挙げられる。これらのことは、英語科職員との連携をより充実させたことで、実現できた。	4	
			大学や研究機関との連携を図る。	地元大学を中心に研修や体験授業等を実施する。	地元大学での実験・実習のように、大学との連携で本校生徒の進路意識を高めたことは、進路の実績にも繋がった。高大接続へ発展させることが課題である。	3	
			23年度以降の活動の在り方を研究する。	文科省及び先進校の情報を積極的に収集し研究を深める。	九州地区SSH情報交換会や他校訪問で、先進校の動向について情報を得ることができ、参考になった。指定が終了する23年度以降の具体的な在り方を検討する必要がある。	3	
国際交流の推進	米国の姉妹校訪問を通して、国際交流を図る。	総務部国際交流係で立案し、選考された生徒を毎年9月姉妹校に訪問させ、国際交流を行う。	1	新型インフルエンザ感染拡大に伴い、姉妹校訪問事業を中止した。今後の国際交流の方法について再検討を行う。			
教育課程の工夫	生徒の学力向上に繋がる教育課程の編成	普通科、理数科、美術科の各学科の特色に応じた教育課程を編成する。	教務部を中心に、生徒の現状や各教科・各教科からの意見を踏まえ、教育課程委員会にて検討する。	3	学科の特色に応じた教育課程の編成は概ねできているが、各教科からは単位増加の希望が多く、現在の枠組では調整が困難。単位増加を含めた教育課程全体の枠組の変更が必要である。		
		総合的な学習の時間（GL）の推進	体験的な学習を通して、課題解決や探究活動に主体的協同的に取り組む態度を育成する。	課題ごとにグループを編成し、図書館やコンピュータ教室等を活用した授業を行う。	2	昨年度までの内容を一新して実施したが、全職員への趣旨の徹底がやや不十分で、事前の準備もうまくいかなかった点があった。次年度は「総合的な学習の時間」を推進するための時間割の工夫（単コマ・帯コマ）やコンピュータ教室等の環境整備が必要である。	
学校行事の運営	学校行事の円滑な運営(行事の精選)	早めの計画、周知徹底を行い、円滑な運営に努める。	総務部を中心に月に各分掌・学年及び行事担当等と密接な連携を図り、調整を行う。	3	行事の調整方法や発表までのタイムテーブルを効率的に確立することができた。次年度も継続して行う。		
		授業時間確保のため行事の精選に努める。	学校評価結果等を基に検討する。	3	今年度、新たな行事精選は行わなかったが、授業時間は概ね確保できた。		
開かれた学校づくり	情報の公開・発信	学校通信やHPで学校の現状や考えを積極的に発信する。	二高会報・進路だより・学年便りやHPを活用し、情報を定期的に発信する。	3	多様な情報をタイミングをはかって提供できた。特にHPの訪問数は、昨年比で約3割の伸びがあった。HPの更新を定期的に行い、その回数を増やす必要がある。		
		保護者・地域等との連携	P.T.A・学校評議員・同窓会等と連携し、協力体制を構築する。	年7回P.T.A理事会、年2回学校評議員会を開催する。行事等への参加案内を密に行う。	3	文書や電話での連絡を通して連携が密に取れた。理事会欠席者へ議事録の写しを送付し情報の共有を図った。	
		学校評価の充実	学校評価を行い、学校教育活動全般の改善に努める。	研修部を中心に自己評価を12月、学校関係者評価を2月に実施し、次年度初めに結果を公開する。	3	2年目の取組であるが、全職員に趣旨が徹底されてきた。生徒・保護者による外部アンケートも計画通り実施することができた。評価結果を次年度へ生かす取組・努力と評価項目の見直し・改善が必要である。	
安全管理の取組	健康教育の推進	生徒の性意識の実態を把握し、性教育の充実を図る。	アンケートを実施し、実態の把握を行う。外部講師による講演会を企画する。	1	アンケートの準備はできていたが、実施時期を逸してしまっていた。次年度は、早い時期にアンケートを実施し、実態を把握した上で外部講師の選定を行い、講演会を実施したい。		
		感染症に関する予防的対応の充実を図る。	保健だよりを年間4回以上発行し、情報を提供する。	3	今年度は新型インフルエンザが流行したこともあり、随時だよりを発行し、対応を呼びかけてきた。		
		第4期麻疹予防接種を勧奨し、接種率100%を目指す。	保護者会、学年会で調査し、未接種者へ個別指導を行う。	4	早期の段階で十分な勧奨ができ、高い接種率（1月8日現在約90%）をあげることができた。		
		定期健康診断の計画的な実施	健康診断を通して配慮を要する生徒の確実な把握と観察指導を行う。	4	行事前の健康調査を徹底し、本人への保健指導および職員への共通理解を十分図ることができた。		
		施設設備の保守・点検	施設・設備不備による事故の撲滅を図る。	年3回校内点検を実施する。安全管理に関する研修を行う。	3	毎日の校舎の点検巡視も含め予定通り校内点検を実施した。施設・設備不備による事故は皆無であった。次年度は事務部と厚生保健部が連携して実施することを検討したい。懸案であった図書館棟沈下改修は完了した。	
学力向上	授業改善の取組	授業評価の導入	授業評価を行い、授業改善に繋げる。	教務部が立案し、7月及び12月に生徒を対象に実施する。	3	生徒による授業評価については予定通り年2回実施できた。しかし、それが授業改善に生かされているのかの検証が不十分である。	
		教師の指導力向上	相互研鑽研究授業を実施し、教師の指導力の向上を図る。	研修部で立案し、各教科年2回の研究授業及び合評会を実施するとともに全員年3回以上他者の授業見学を行う。	4	昨年度までの教師個々の授業の相互交流である相互研鑽授業に加えて、今年度から新しく研究授業及び合評会をとり入れた。計画通り実施することができ、教師の授業に対する意欲や意識、指導力の向上を図ることができた。他の教科からの授業見学も多かった。次年度はこの取組の更なる定着と授業の質の向上を目指していきたい。	
自学自習の充実	宅習（予習・復習）の習慣化	宅習時間の推移を把握し、家庭学習の指導に活かす。	教務部で立案し調査する。1・2年(年3回)、3年(2回)の調査結果を踏まえ、担任は面談を行う。	4	各学年とも目標宅習時間を達成しており、宅習時間の定着という所期の目的は達成されている。3年の2回目（11月）は受験勉強期間に突入しており、全体集計の必要はないという3年学年会からの意見があり、クラス独自の調査にとどめた。		

	個に応じた指導体制の確立	学力不振や不登校傾向の生徒に対する支援	長期休業中に補講を実施し、個に応じた指導を行う。	教務部で立案し、年4回(夏期・秋期・冬期・学年末)休業中に行い、生徒の基礎学力を養う。	3	計画通り補講は実施でき、補講日数も前年並みに確保できた。補講対象者数も前年並みであったが、補講後の教室復帰には必ずしもつながっていない状況がある。
進路指導	キャリア教育の推進	進路実現に繋がるキャリア教育の展開	進路講演やキャリアガイダンスを実施し、生徒に職業観・勤労観を身に付けさせる。	進路部で立案し、学年ごとに進路講演会を実施し、事前・事後指導を行う。ガイダンスでは、1年は職業別、2年は学問系統別に講師を招聘する。	4	各企画の実施後は進路指導室への来室も多く、生徒に対する良い刺激となった。
	進路目標の実現	進路検討会の実施	進路検討会を実施し、進路実現のための支援を行う。	年3回検討会を全職員で行い、資料を基に生徒の進路実現のための方策を検討する。	4	多くの職員に参加により、3年担任が情報を得て指導法を学ぶ良い機会となった。
		計画的な面談の実施	三者面談を実施し、希望や課題等を的確に把握する。	三者面談を実施し、希望や課題等を的確に把握する。	3	計画的に実施できたが、進路指導部による事前研修が不十分であった。面談後は、担任間で課題共有に努める様子が見られた。
		課外・模試・土曜講座の取組	早期学習・課外・土曜講座を行い、学力の定着・向上を目指す。	長期休業中、3年生の6月から課外を実施する。また、月2回土曜講座を実施し、学力の補強をする。	2	土曜講座への欠席が目立つようになった。再度意義を訴え、実施法にも工夫を施す必要がある。
	進路情報の発信	進路だより及び進路のてびきの発行	模試を行い生徒の実態を把握し、指導に活かす。	計画的に実施し、学年等と課題を共有する。	3	計画的に実施することができた。出席状況も良好であった。教師側が模試結果を指導に活かすために、より迅速な発信ができるよう努力したい。
進路だより及び進路のてびきの発行			正しく分かりやすい情報を提供し、進路実現の一助とする。	進路だよりを年3回、進路のてびきを年1回発行する。保護者会時に配付し、ポイントを押さえた説明を行う。職員研修を行い、三者面談・家庭訪問で活用する。	4	「進路のてびき」には各種様式を掲載し、より利用しやすいように改訂した。各学年会での研修も実施できた。
生徒指導	基本的な生活習慣の徹底	積極的な生活指導の展開	挨拶・服装指導を徹底する。	登校指導(毎日)、下校指導、自転車点検・服装検査を実施する。	3	挨拶や服装については、生徒指導部・学年を中心に早期から校門で指導をしている。指導には素直に従うが、自ら実践する態度にやや欠けている。
		交通マナーの向上	交通安全指導を徹底し、事故の撲滅を図る。	交通安全教室・バウ通学生実技指導等を行う。	2	交通マナーの向上については、大半の生徒は交通ルールを守って概ね良好であるが、時折、苦情の電話がある。粘り強く指導を続けていきたい。
	環境美化の取組	清掃活動の推進	校内及び学校周辺の美化活動を推進する。	早期掃除(毎日)、美化委員による清掃点検(学期2回)を行う。	3	部活動生徒を中心に、早期の清掃活動は充実している。学校がきれいであると各方面から評価を頂いている。ただし、屋の全校生徒による通常の掃除では、取組が不十分な生徒がいる。
	生徒会活動・部活動の取組	生徒会活動の活性化	生徒による自主的で円滑な運営を支援する。	役員を中心に計画の段階で適切な指導、助言を行う。	3	体育的活動(運動会・クリスマス等)や文化的活動(文化祭等)においては、生徒会が中心となり、強い意志を持って活動・実践ができている。今後更に発展するためには、一般生徒と生徒会生徒の連携や教師と生徒会の連携を深めていかなければならない。
部活動の活性化		部活動加入率を上げ、定着を図る。	あらゆる機会に部活動の意義を訴え、顧問による指導を充実する。	2	加入率は92%(1128/1226)である。文化部に472人、運動部に656人が加入しており、かなりの数が活動している。ただし、重複している部員も多く、PTA総会や保護者会等で保護者にも訴えかけて、加入率を上げていきたい。	
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	教職員の人権意識の向上	職員の人権意識の高揚を図る。	毎月人権教育だよりを発行し、朝会等で紹介する。	2	人権教育だよりの発行である程度は職員の人権意識の向上に寄与できたが、職員の人権に関する研修の場が少なく不十分である。
		校内研修の充実を図る。	人権教育推進委員会で研修について研究する。	2	職員の研修の機会の設定が少なかった。年度当初、校外の大会や研修会の一覧をつくり、年に1回は自主的に参加できるようにする。また、校内での研修を充実させ、職員の人権意識を高めていきたい。	
	すべての教育活動を通じた取組の強化	分掌部や教科との連携	全ての部や教科で指導法の改善に努める。基礎学力の定着(学力保障)に努める。	人権ホスター・標語を作成する。生徒会による取組を推進する。各教科会で学力保障について研究する。	3	具体的な連携ができなかった。各教科や生徒会との連携を深め、生徒の人権意識を高める取組が生徒たち自身で実施できるようにする必要がある。学力保障については、研究授業・合評会や補講等である程度すべての生徒の基礎学力の定着に努めることができた。
	学校、家庭、地域社会における取組の充実	学校、家庭、地域社会との連携	学校・家庭・地域社会との交流を促進する。	人権教育だより・学年通信等の活用。地域社会における研修への参加を呼びかける。	2	人権に関するチラシやテレビ・ラジオ番組等の紹介を生徒を通じて行ったが、生徒・保護者への啓発活動が足りなかった。また、職員の校外研修参加も不十分であった。
	不登校傾向の生徒に対する適応指導の充実	不登校傾向の生徒に対する支援	教室への復帰を目標とする。	研修を実施し、職員の共通理解を促進する。特別支援教育対策委員会の活動を通して関係職員との連携を密にする。	3	校内研修会を十分実施することができた。教師の声掛けを契機に教室復帰できた生徒が多かった。自学室の利用生徒に対する支援についての働きかけが職員に対して不足していたように思われる。
			生徒・保護者への支援体制を確立する。	保護者との連携を密にし、連携の徹底を図る。	4	保護者との連携は十分達成できたと思われる。
校務の情報化	校務情報化の推進	グループウェア及び教務支援システムの円滑な運用	全ての職員がグループウェア、教務支援システムに関する操作を習得する。	ネットワーク委員会を中心に研修を年2回以上全ての職員を対象に実施する。	2	今年度9月から教務支援システムを導入したが、職員に対する研修が不十分な面や運営に関して円滑さを欠くところがあった。
理数科・美術科の充実	理数科の充実	理数教育の充実	SSH指定終了後を視野に入れた理数教育の開発に努める。	フィールドワークに重点を置いた阿蘇・天草巡検や教育インターシップを導入した課題研究を実施する。	3	生物・地学分野に関する天草巡検は実施できた。また、課題研究では各班がテーマを設定し、週1時間の活動を行い、校内外の参観者の前で結果を発表することができた。教育インターシップについては、大学の都合で導入できなかった。
		教育課程の研究	総合的な学習の時間の在り方を研究する。	教務を中心に理数科・学年等と研究する。	2	SSH事業終了後の平成23年度以降の総合的な学習の時間の在り方について、理数科と教務の検討が不十分である。
	美術科の充実	実技力の向上	制作環境を整え、実技力の向上に努める。	石膏デッサン室や図書室を積極的に活用させる。	3	石膏デッサン室は3年生が主に活用しているが、放課後や早期など2年生も積極的にデッサンをするなど、実技の向上に励んでいる。図書室では進路資料などの活用も多い。
広報活動の充実		県下唯一の美術科のアピールに努める。	「美術科だより」を発行し、職員や保護者に配付しHPに掲載する。	3	美術科だよりの発行がやや少なかったのは残念だが、12月の3年生の美術科制作展や今年度から始めた1月の1・2年生の授業作品展など、校外の展示で美術科をアピールすることができた。	

4 学校関係者評価

学校関係者（学校評議員及びPTA役員）には、本校の教育活動全般の運営に対して概ね高い評価をいただいた。昨年度から取り組み始めた「学校評価」については、趣旨を理解された上での適切な評価を得ることができた。

以下、主な指摘や意見をまとめる。

- (1) 人権教育の推進について、犯罪被害者の人権や支援について考える機会を設定したらどうか。
- (2) スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の推進について、英語でコミュニケーションをとる授業は大変重要なことで評価できる。理数科以外の生徒にも実施してほしい。
- (3) 昨年度、最低評価であった研究授業の実施については、今年度改善されて良いと感じた。
- (4) 新学習指導要領に基づく「総合的な学習の時間」（GL）を実施されているが、全職員への趣旨の徹底を図ってほしい。
- (5) 45分7限の授業や単位増加の検討を行っているのに関して、授業が不足する原因を明らかにすることと、年間シラバスの検討をしっかりと行って臨んでほしい。
- (6) 学校行事等で生徒の表情や対応等を見る限り、成長したなあと感じている。
- (7) 先生方は土・日もないように生徒のために頑張っておられ、大変感謝をしている。

5 総合評価

県の実施要項に従い、今年度は21の評価項目延べ44の具体的目標を立て、目標達成のために掲げた具体的方策に基づいてそれぞれの担当部署を中心に自己評価を行った。この自己評価と学校評議員及びPTA役員による学校関係者評価結果から次のようなことが総括できる。

- (1) 系統的・具体的な評価を行うことにより、組織として学校目標を再認識することができ、本校の弱点や課題を客観的に知ることができた。
- (2) 学校評議員会やPTA理事会に主任・主事が同席し、学校に対する評価（意見や要望）を直接聞くことで職員の学校運営に参画する意欲を高める機会となった。
- (3) 生徒のために本校が頑張っている取組や本校ならではの特色ある取組をさらに地域や保護者に積極的にPRしていく必要がある。（HPの定期的な更新や臨時パンフレット・ポスターを作成するなど）
- (4) 自己評価結果で低い評価である1と2については、理由がはっきりしているので目標等を見直すとともに早急に改善していきたい。

6 次年度への課題・改善策

以下、主な課題や改善策をまとめる。

- (1) 最低評価となった「安全管理」の性教育の充実については、生徒の性意識に関する調査を早期に実施し、実態を把握した上で講演会等を実施していく。
- (2) 学校関係者評価で指摘があったシラバスについては、生徒に配付し、保護者にも説明責任が果たせるものを作成していきたい。
- (3) 生徒・保護者による外部アンケートで、「自分の子どもから、学校・生徒に関わる各種の情報を十分受け取っている」の評価が低かった。生徒への指導を強化するとともに、HPの充実も図っていきたい。
- (4) 項目や目標、内容が学校教育目標や三綱領を具現化しているものになっているのか、客観的に評価できるのかなど再度検討する。さらに、第三者が見ても分かりやすい表記を心掛けていく。
- (5) 学校関係者評価においては、大変貴重な意見やアドバイスをいただいた。次年度へ是非生かしていきたい。